

たまなわじょうあと

玉縄城跡

(鎌倉市No.63遺跡)

調査期間 20070507～20070521

所在地 鎌倉市植木 85 他

時代
中世
近世



作成日:20071010

概要

鎌倉市では、神奈川県藤沢土木事務所による急傾斜地崩壊対策工事に伴う発掘調査が行われており、工事中発見のやぐらなども含め、一年のうちに多くの遺跡の調査が行われています。

遺跡は大船駅の東約 1.2kmに位置します。今回の調査では、崖裾のやぐらの発掘調査を行いました。

背後に位置する丘陵には、戦国時代の後北条氏によって玉縄城が築かれました。玉縄城では堀・土塁・切岸などの城郭関連遺構や建物跡・溝・井戸・土坑などの生活関連遺構がこれまでの発掘調査で見つかっています。

やぐらは玄室床面が 3.48×3.58mの方形で、標高はおよそ 10.33mです。玄門の構造は柱穴のみの存在であったため多くを語れませんが、柱穴が存在することからは、木製門扉等の施設の存在を推測させます。江戸期になってからは、駒繋ぎ穴などがあることから畜舎として改変されたことが考えられます。



▲やぐら全景



▲やぐら壁面の駒繋ぎ穴